

令和3年度 大井川の清流を守る研究協議会総会

1. 開催日 令和3年7月26日（月）午後2時00分～午後4時00分
2. 場所 島田市 大井神社 宮美殿
3. 内容

大井川流域8市2町（島田市・焼津市・掛川市・藤枝市・袋井市・御前崎市・菊川市・・牧之原市吉田町・川根本町）でつくる「大井川の清流を守る研究協議会」（会長・鈴木敏夫川根本町長）は26日、本年度の総会を島田市の大井神社 宮美殿にて開催。総会には各市町の首長及び議長、担当職員、来賓など併せて50人が出席しました。

総会では、令和2年度の事業報告及び収支決算、協議会規約の改正について、令和3年度の事業計画（案）と収支予算（案）が審議され、いずれも原案のとおり承認されました。

本年度事業としては、住民を対象とした源流部等視察会や、小学校での環境教育出前講座の実施、大井川の環境問題等に関する現況確認調査、大井川フォーラム等の開催や海岸等清掃活動事業などを実施する予定です。

また、リニア中央新幹線南アルプストンネル建設における大井川の水量問題については静岡県が先頭となり、大井川水系の水資源の確保及び水質の保全等に関して、専門部会においてJR東海との対話を進めているところであります。当協議会におきましても、リニア中央新幹線建設に係る諸問題をはじめ、大井川流域の土砂堆積など、大井川の流況改善に関する活動を引き続き関係機関に対し行っていくこと、流域市町が一体となり情報を共有し連携を図っていくことが重要であると確認しました。

総会終了後には、静岡県難波副知事による「リニア中央新幹線建設工事」に関する講演会を実施し、現状のJR東海の対応のままでは「流域住民の理解は得られない」と述べ、同社は説明内容や姿勢を改める必要があると強調されました。

また、大井川流域の首長からは、熱海市の土石流災害での不適切な工法の盛り土が被害を拡大させたとみられていることを受け、大井川上流部に盛り土で建設するリニア工事の残土置き場の安全性を懸念する声も上がりました。

今後においても、JR東海からの工事に関するリスク回避や軽減、水資源の保全・確保及び自然生態系への影響調査や監視対策等が必要であり、将来に亘り安全・安心を確保するため、納得いく対話を行っていくことが重要であると再確認されました。



総会の様子



総会の様子



講演会の様子



講演会の様子